

# 殻需給調整体制構築など

国交省有識者委  
中間報告書

## 抜き打ち検査も

アスファルト合材の不正

オローアップしていく。

＝1面参照

納入事案への対応を検討してきた国土交通省の有識者委員会は24日、中間報告書案をまとめた。コンプライアンス意識の向上や事前審査体制の強化、アスファルト殻（がら）需給調整の新たな仕組みの導入などを提言。再生合材の利用拡大に向けた技術開発促進も盛り込んだ。委員会は同日の議論も踏まえ近く中間報告書を策定。今後、再発防止策や対象工事の補修などをフ

同日に東京都内で「アスファルト合材の不正納入に関する有識者委員会」の第3回会合を開き、中間報告書案について議論した。改善策として▽道路舗装業界全体でのコンプライアンス意識の啓発▽プラント製造データの管理体制強化▽ISO9001取得促進のためのインセンティブ付与の検討▽抜き打ち検査などアスファルト事前審査体制強

化▽受注者とプラント会社の役割明確化」などを提言。建設発生の土の仕組みを参考にした新たなアスファルト殻の需給調整体制の検討も求めた。

一方、再生合材の長期耐久性に関する知見を得る機会にもなるとし、アスファルト合材の使用過程を追跡できる仕組みの導入や合材の水平リサイクル（リサイクル前後で用途を変えない資源循環方法）に向けた技術検証、技術開発を促す新たな制度の導入検討も盛り込んだ。

めた「直ちに補修を求めない」「再生合材と新規合材の差額分の返金を求める」「経過観察を行い変状が発生した際に受注者負担で補修する」という基本方針を踏襲し記載した。道路管理者が希望する場合は返金せず直ちに補修することも可能とした。

国と高速道路会社が発注した道路舗装工事で契約と異なる再生骨材を混ぜたアスファルト合材が使用されていた。報告書案によると、NIPPPOと鹿島道路のプラントで出荷伝票に虚偽記載があることなどから「意図的な事案」と指摘した。

